

5月のてがたんにご参加いただきありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回6月のてがたんは6月8日(土)で、テーマは「歌で楽しむ自然観察」です。ぜひご参加ください。市民スタッフのみなさま、次回の下見は6月2日(日)です。

5月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→香取神社→藤棚→市民農園前→けやき広場
- 観察日時と天気：2019年5月11日(土) 10:00~12:00 晴れ
- 参加人数：33名(大人24名、中学生以下9名)
- 市民スタッフ：6名(小泉伸夫、石原直子、伊東茂子、木村稔、弘實さと子、湯瀬一栄)
- 鳥博職員：1名(小田谷嘉弥)

観察した生き物の記録

【鳥類】

【*】は、下見だけで見られたもの。

カモ科：カルガモ、コガモ* / カイツブリ科：カイツブリ / ハト科：キジバト / ウ科：カワウ / サギ科：アオサギ、ダイサギ、ゴイサギ* / クイナ科：オオバン / タカ科：サシバ* / カワセミ科：カワセミ / キツツキ科：コゲラ(声) / モズ科：モズ(声) / カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス / シジュウカラ科：シジュウカラ / ツバメ科：ツバメ / ヒヨドリ科：ヒヨドリ / エナガ科：エナガ / ウグイス科：ウグイス* / メジロ科：メジロ / ヨシキリ科：オオヨシキリ(声) / ムクドリ科：ムクドリ / スズメ科：スズメ / セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ / アトリ科：カワラヒワ / ホオジロ科：ホオジロ / 家禽や外来種：コブハクチョウ(カモ科)、ドバト(ハト科)

【両生爬虫類・魚類】

爬虫類：ミシシippアカミミガメ、ニホンカナヘビ* / 両生類：アズマヒキガエル(オタマジャクシ)、ニホンアマガエル、ニホンアマガエルまたはシュレーゲルアオガエル(オタマジャクシ)、ウシガエル / 魚類：コイ、ギンブナ、ゲンゴロウブナ、メダカ、カダヤシ

【昆虫】

チョウ目：ナミアゲハ、クロアゲハ、ナガサキアゲハ、ジャコウアゲハ、アオスジアゲハ*、ルリシジミ、ヤマトシジミ、ベニシジミ、ヒメアカタテハ、キタテハ、ツマグロヒョウモン、モンシロチョウ、モンキチョウ、シャクガの仲間(幼虫)、セセリチョウの仲間(幼虫)、オビガ(幼虫) / コウチュウ目：ナナホシテントウ、ナミテントウ、コガタリリハムシ、ホタル科の仲間*、ゲンゴロウの仲間(幼虫) / バッタ目：ヒシバッタ、ヒメギス(幼虫) / カメムシ目：アメンボ、マルカメムシ、ヘリカメムシの仲間、グンバイムシの仲間(幼虫) / トンボ目：シオカラトンボ、オオヤマトンボ、アオモンイトトンボ / ゴキブリ目：モリチャバネゴキブリ / シリアゲムシ目：ヤマトシリアゲ / ハエ目：ヒラタアブの仲間、ハナアブの仲間 / ハチ目：オオスズメバチ、クマバチ、セイヨウミツバチ、コハナバチ

【クモ】

オニグモ、ゴミグモ、ハエトリグモの仲間、アシナガグモの仲間

【花・実】

花 キク科：セイヨウタンポポ、ハルジオン、ノゲシ、オニノゲシ、オニタビラコ、ヤブタビラコ、オオジシバリ、ハハコブサ、ウラジロチチコグサ、チチコグサ、チチコグサモドキ、フタナ、コウゾリナ / マメ科：ゲンゲ、カラスノエンドウ、シロツメクサ、アカツメクサ、コメツブツメクサ、ニセアカシア / シソ科：ホトケノザ / オオバコ科：オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、ヘラオオバコ / ハエドクソウ科：ムラサキサギゴケ / ムラサキ科：キュウリグサ / カタバミ科：カタバミ、アカカタバミ、オッタチカタバミ、ムラサキカタバミ、イモカタバミ / セリ科：ヤブジラミ / ツユクサ科：トキワツユクサ / アカバナ科：アカバナユウゲショウ、メマツヨイグサ / バラ科：ヘビイチゴ、ヤブヘビイチゴ、オヘビイチゴ / アヤメ科：ニワゼキショウ、オオニワゼキショウ、キショウブ / イネ科：チガヤ、コバンソウ / ヒガンバナ科：ノビル / タデ科：ギンギシ、エゾノギンギシ / キンポウゲ科：ケキツネノボタン / ケシ科：ナガミヒナゲシ / ナデシコ科：コハコベ、ノミノツヅリ / スイカズラ科：ノヂヤ、スイカズラ / フウロソウ科：アメリカフウロ / 実 ヤナギ科：マルバヤナギ / カヤツリグサ科：ミコシガヤ / イネ科：複数の不明種

5月の観察アルバム



今回のてがたんのテーマは「あびこの自然の『音風景』」でした。林に囲まれた香取神社の境内と、開けた手賀沼沿いで、3分間音を立てずに自然の音を聴いて、音風景の違いを比べてみました。意外とたくさんの自然の音が聞こえる一方、人間の出す音が大きいことにも気付かされました。



今月の案内人 小泉伸夫さん



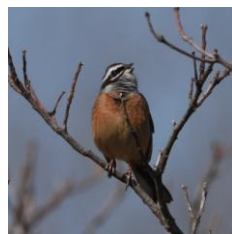
- ① アリの巣に運び込まれるジャコウアゲハの雄
- ③ 香取神社の林床にいたシャクガの仲間の幼虫
- ④ ハケの道沿いに生えていたモウソウチクのタケノコ
- ⑤ ふわふわしたシロタモの新葉
- ⑥ アズマヒキガエルのオタマジャクシ



② 畑の中で縄張りを宣言していたキジの雄。大きな鳴き声は、数百メートル離れていても聞こえてきました。

歩いたルートと観察した生き物

⑧ 田んぼで見つけたニホンアマガエル。水田に水が入る4月ごろから活動を始め、「グエッグエツ…」と鳴きます。



- ⑦ 昆虫が吸蜜にきていたハルジオンの花
- ⑨ 生垣の中にあつたモズの巣(繁殖後のもの)
- ⑩ ふわふわした種を飛ばしていたマルバヤナギ
- ⑪ ガの幼虫? によって丸められたマルバヤナギの葉
- ⑫ 沼沿いで囀っていたホオジロの雄

今月の鳥 キジ (キジ目キジ科)

キジはカラスくらいの大きさの鳥で、雄は頭部に露出した赤い皮膚や長い尾羽などが目を引く、見た目の派手な鳥です。手賀沼の周辺では、畑や田んぼなどの開けた環境で見られ、森の中にはあまり入りません。雄は3月ごろから縄張りを主張するため、大きな声で「ケーン、ケーン」と鳴きながら羽ばたき、翼を激しく胸に打ちつけて「ブルルッ」と音を出すディスプレイを行います。このように目立つ羽装や動きの雄とは対照的に、雌は地味な羽色で、あまり目立つ場所に出てきません。キジは雌が巣作り、抱卵とヒナの世話をを行うので、この地味さは外敵に襲われないための保護色としての役割を持っているようです。雄のディスプレイは6月ごろまで続きます。畑や田んぼを通る際には、キジの姿を探してみてください。



キジの雌(手前)と雄のつがい。雌は全身褐色で黒の斑があり、草の中では外敵に見つかりにくくなっています。